



大明小学校

校長室から

令和2年7月10日

No. 5

文責 校長 穴山 直樹

学習評価の意味



雨の日が続く、保護者の皆様方には子どもたちの登下校にご配慮いただき、誠にありがとうございます。そんな梅雨の中でも子どもたちの元気な声が各教室から聞こえます。子どもたちは活力にあふれ、本当に元気です。明るく元気な子どもたちに囲まれて生活している私も子どもたちからパワーをもらい、なんだかうきうきとしてきます。まさに子どもたちは宝です。

さて早いもので7月の第2週を終え、1学期もまとめの時期になりました。この後、各学級では学んできた内容を確認し、成長を認め、課題を明らかにし夏休みを迎えられるように指導して参ります。1学期の子どもの成長については通信表でお伝えいたしますが、学校は子どもたちが「確かな学力」を身につけるため、毎時間、各教科単元ごとに評価を行い、各自の学習状況を把握し個に応じた指導を行っています。また、評価を指導に生かすことで、子どものよさや可能性を引き出し、「やる気」を起こさせるようにしています。そのことが学習評価の大切な点です。私は常々「子どもの良いところをほめ、認め自信をつけさせる」ことを職員にも（時には保護者の方々にも、しばしば自分自身にも）話すのですが、それはなかなか難しいことです。つい課題が目につき指導や注意の方が……。 （そこをぐっところえ）、私たち大人は、子どものよさを生かし、自分を価値ある存在として認められるよう、次の視点をもって子どもに接することが大切だと思います。

※例

- ◎可能性を広げる「○○をさせよう。きっと自信がつくだろう。」⇔●決めつける「○○は無理だな。」
- ◎よさを見つける「○○が上手になったね。」⇔●無関心「どうせ、できないだろう。」
- ◎励ます「忘れ物が5回だったね。来月はもっと減らせると思うよ。」⇔●否定「また、忘れ物か」
- ◎ほめる・認める「掃除をしたことでみんな気持ちいいよ。」⇔●無反応・無関心「掃除をするのが当たり前」

これらのことはどの程度身につけているかではなく、これからどのように声をかけていくのかが、学校でも家庭でも大切なポイントだと思います。これからも、子どもたちへの言葉かけを大切に、保護者の方々と子どもの可能性や長所を連携してのばしていくことができると考えています。

「子どもが育つ魔法の言葉」(有名なので、ご存じの方もいらっしゃると思いますが…)



けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる とげとげした家庭で育つと、子どもは乱暴になる
不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる 「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる
子どもを馬鹿にすると、引っ込み思案な子になる 親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる
叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思ってしまう

励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる 広い心で接すれば、キレる子にはならない

誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ 愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる 見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる

分かち合うことを教えれば、子どもは思いやりを学ぶ 親が正直であれば、子どもは正直であることの大切さを

知る 子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ やさしく育てれば、子どもはやさしい子に育つ

守ってあげれば、子どもは強い子に育つ 和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世はいいところだと

思えるようになる (ドロシー・ロー・ノルト/レイチャル・ハリス/石井千春 訳)

